

社会福祉法人療育・自立センター  
平成30年度

療育センター（あかつき園・ひばり園・第2ひばり園、あかつき・ひばり  
療育相談室、あかつき・ひばり歯科診療所）事業報告

はじめに

平成30年度の新生療育センター（あかつき・ひばり園）の5年目は、法人職員61名市派遣職員8名、子育て支援課ライン職員4名の計73名でスタートしました。

平成30年度は指定管理者を受託して5年目、第Ⅰ期5か年計画の移行期間の最終年次となりました。平成31年度から平成35年度までの第Ⅱ期以降から、療育センターの職員65名がすべて本法人の職員となり、「完全独立、自立して運営」を目指すこととなり、その移行期間の最終年次です。

本年度は、平成30年度の重点方針に基づき、（1）園児と保護者・家族等の基本的人権の尊重と確かな発達保障のため、法人職員が総合的療育水準の向上を目指し、i）日々の実践の振り返り、ii）研修・研鑽等に励んできました。（2）医療的ケア体制の強化のため、昨年度に引き続き5人体制を敷き、「医療的行為をどこまで拡大できるか」を念頭に、その実践にむけての準備を進めつつあります。（3）相談支援、福祉相談は18歳までの「療育相談支援事業」の実施の「基礎整備」として、相談支援員の強化を図り、当面、小学校6年までを視野に入れた支援を試行しつつあります。

（4）外来相談・訓練、保育所・幼稚園への発達巡回相談、保育所等訪問支援等へのニーズの高まり、学校教育との連携におけるリハビリテーションの支援については「どこまで対応できるか」引き続き検討し、寝屋川市と協議してまいります。（5）増加する併行通園の児童及び保護者の支援に対し、今年度は担当者の専任化をはかりました。より安定充実した体制づくりに、さらに努めてまいります。（6）療育環境の整備につきましては、トイレの改善、療育備品の順次更新、31年度「新アスレチック」の実現に向けた取組み、台風等被害の修復にも努めてきました。

Ⅰ期最終年次（平成30年度）は、Ⅱ期目以降（平成31年度以降）の安定充実した療育センターとして、保護者・家族、関係者の皆様の願いに沿った療育水準の質向上に向けての、内容と条件の整備を寝屋川市と真剣に協議して来ました。当事者・家族、関係者、市民の皆様の期待に応えるべく恒常的な寝屋川市における療育と療育システムの中核としての役割を果たせるよう、今後とも引き続き協議してまいります。

## I. 運営概況

### 1. あかつき園・ひばり園・第2ひばり園および歯科診療所の運営

(1) 児童発達支援センター（あかつき園・ひばり園・第2ひばり園）の園児数  
(H31. 3)

施設の種類・年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
あかつき園（医療型）	3	8	11	3	6	5	36人
ひばり園（福祉型）	0	0	3	1	25	13	42人
第2ひばり園（福祉型）	0	1	20	24	0	0	45人
計	3人	9人	34人	28人	31人	18人	123人

(2) あかつき・ひばり歯科診療所診療実績（H31. 3. 31）

内 容	園児	外来児	計	診療回数	一回平均
治療人数	59人	20人	79人	年間44回 毎週木曜	7.6人
延べ治療人数	236人	100人	336人		

(3) あかつき・ひばり療育相談室 相談実績（園児以外）（H31. 3. 31）

内 容	外来相談	巡回相談	計
相談人数(実)	221人	69人	290人
相談件数(延)	1812件	146件	1958件

### 2. 職員の配置等（指定管理協定書別表1. 職員配置から）の状況

(1) 正職員配置（66名、内法人職員58名） (2) 非常勤職員(42名)

① 施設の長及び施設の長の代理	2名(法2)	① 管理医師	1名
② 療育相談室長	1名(法1)	② 小児神経科医師等	3名
③ 事務従事者	2名(法2)	③ 整形外科医師	1名
④ 児童発達支援管理者	3名(法2)	④ 耳鼻咽喉科医師	1名
⑤ クラス支援担当	31名(法30)	⑤ 眼科医師	1名
⑥ 訪問支援員	3名(法1)	⑥ 歯科診療所管理医師	1名
⑦ 発達相談担当	3名(法2)	⑦ 歯科医師	27名
⑧ 福祉相談担当	1名(法1)	⑧ 歯科衛生士	3名
⑨ 相談支援担当	1名(法1)	⑨ 作業療法士	2名
⑩ 看護師	4名(法3)	⑩ 理学療法士	1名
⑪ 理学療法士	4名(法3)	⑪ 精神保健福祉士	1名
⑫ 作業療法士	2名(法1)		
⑬ 言語聴覚士	2名(法2)		
⑭ 歯科衛生士	1名(法1)		
⑮ 栄養士	2名(法2)		
⑯ 調理員	4名(法4)		

※福祉兼発達相談法人単独前倒し1名配置。医療的ケア対応に看護師1名法人単独配置  
理学療法士法人単独前倒し1名配置

## II. 事業実施状況

### 1. あかつき園・ひばり園・第2ひばり園における園児・家族への支援

本センターの療育活動は、①保育・教育 ②訓練 ③保健・医療 ④  
観察

⑤相談支援 ⑥関係機関との連携等（コーディネート）の6つの機能で  
もって総合的療育を提供し、園児等の発達支援と保護者・家族の支援を  
行っている。

#### (1) 療育実践の継承・発展について

##### ① 児童集団編成と職員配置（31年3月1日現在）

クラス	ぞう	ぱんだ	ぺんぎん	いるか	きりん	りす	ひよこ	母と一か	母みーち
児童集団	13	13	13	13	10	15	8	7-7	6-5
職員配置	5	5	5	5	4	5+A	2+N	3	2+N

##### ② 併行通園児（幼稚園・保育所と併用児童、週1回）

クラス	あんぱんまん(ひばり園)	どきんちゃん(あかつき園)
児童集団	11	2
職員配置	専任+非常勤+兼務	専任+非常勤+兼務

③ 療育実践継承のために、市派遣職員が法人職員への教育的役割を  
担当。

i) 各グループの責任者として法人職員がほとんどの責任を担っ  
ている

ii) 法人職員は、行事、各係のほとんどの責任者を、クラス主任  
はぞ

う、ぱんだ、ぺんぎん、いるか、きりん、りす、ひよこ、母子  
クラスの9クラス全てで担当している

##### ④ 各種所内研修の実施

発達、PT、OT、ST、栄養・給食、センター理解（歴史、制度、役  
割等）

保健・医療、療育指導（計画、指導、行事等）等

#### (2) 青年・成人期を見通した療育の内容づくりについて

療育計画のなかに位置付けられ支援内容が検討されている。法人職  
員の

実際の学びは、療育システム、療育ネットワーク学習、園児の卒園・  
退園後のフォロー等から学ぶ。（まずは幼児期・学齢期から）

① どんぐり教室、保育所、幼稚園等での障害児保育理解のために

i) 保育所等訪問支援に同行(職種別延べ訪問回数)

保育士・指導員	P T	O T	S T	看護師	発達	福祉	計
52	17	23	9	0	46	29	176

ii) 交流保育での実践的学び(30年度交流保育先)

クラス名	ぞう	ぱんだ	ぺんぎん	いるか	りす
保育所名	コスモス4歳	さくら5歳	さざんか4歳	あざみ4歳	さつき5歳

クラス名	きりん
保育所名	たんぽぽ4歳

iii) 就学支援としての学校見学に同行

- ・地域支援学級、寝屋川支援学校、交野支援学校、生野聴覚支援

学校

② 保護者会としての学習の一環

寝屋川市立子育てリフレッシュ館「リラット」見学

11月5日(月) 予定(感染症の影響により中止)

(3) こどもの障害・症状等を正しく捉え適切な療育を行うことについて

① 定期ケース検討会

i) 「個別支援計画」の作成(5/16、5/17、5/22、5/23)

ii) 前期総括のためのケースのまとめ作成(8/22、8/23、8/28)

iii) 「個別支援計画」の見直しと後期総括のまとめ

(10月12、15、16日の休園及び18、19、22日を半日保育で)

② 家庭訪問

・2日間実施(5/29、6/6) → 「共同の子育て」の一環で実施

③ 各種評価(PT、OT、ST、発達、保健・歯科医療、栄養、福祉)

「相談・リハビリテーショングループ」の各専門スタッフによ

る園

児の評価を提供し合い、より適切で総合的な支援をめざして実

施

(定期ケース検討及び適宜必要に応じて実施)

(4) 医療的ケア(31年3月31日現在)

保健医療係(看護師 5名)

① 保健係の把握状況と支援

i) 障害・症状の状況

- ・あかつき園児 36名 障害・症状別 20 種類
- ・ひばり園・第2ひばり園 87 名 10 種類
- ii) 合併症のある児童 (42名)
  - ・あかつき園児 36 名中 26名
  - ・ひばり園児 87名中 16名
- iii) 医療的ケアの児童 (16名)
  - ・あかつき園児 36名中 12名
  - ・ひばり園児 87名中 4名
- ② クラス配置
  - i) 常時クラスに配置している看護師3名
    - ・あかつき園＝ひよこ (重心児クラス)、母子あかつきクラス
  - ii) 連携密度の濃いクラス
    - ・あかつき園＝りすクラス
    - ・ひばり園＝きりんクラス
  - iii) その他のクラスは必要時支援
- ③ 各種医師診察会 (各月1回実施、年間各12回実施)
  - ・小児科、小児神経科 (年6回)、児童精神、耳鼻咽喉科、整形外科、眼科 (年2回)
- (5) リハビリテーション支援 (機能訓練実施状況等)
  - ① 整形外科、耳鼻咽喉科医師診察会 (毎月各1回)
    - ・リハビリテーション支援
  - ② 指定管理初年度から、PT 1名、OT 1名、ST 2名の正職員4名の増員
    - ・PT 5名、OT 2名、ST 2名の計9名のリハビリテーションスタッフにより実施。市直営時代の2倍の体制によりリハビリテーションを充実・強化している。
    - ・個人訓練が強化されるとともに、STは27年度から医療請求もできるようになりあかつき園の財源強化も図っている。
  - i) 理学療法士 (PT 5名)
    - ・個別リハビリ (実人数 52 名、延べ 2143 回)
      - (あかつき園：実人数 37名、延べ1999回)
      - (ひばり園：実人数 15 名 延べ 144回)
  - ii) 作業療法士 (OT 2名)
    - ・個別リハビリ (実人数 64名、延べ 742回)
      - (あかつき園：実人数36名、延べ552回)
      - (ひばり園：実人数28名、延べ190回)
  - iii) 言語聴覚士 (ST 2名)
    - ・個別リハビリ 実人数 63名 延べ 588回

(あかつき園：実人数 37名、延べ491回)

(ひばり園：実人数 26名、延べ 97回)

・摂食指導 実人数 44名 延べ 329回

(あかつき園：実人数 37 名、延べ 305回)

(ひばり園：実人数7名、延べ 24回)

iv) OT、STは個別リハビリ以外に集団OT、ST及び各種評価活動、療育参加を実施し、日常的にクラス支援と連携している

#### (6) 行事の取り組み

・行事は、基本的に年齢、障害、症状、程度に関係なく全員参加で実施

施

##### ① 大行事

i) 宿泊保育 (7/13、14) 実施 (西日本豪雨の影響により予備日実施)

対象児4、5歳児、園児42名中40名参加、37名宿泊

ii) 運動会 (10/7) 実施 (台風24号の影響により予備日実施)

iii) 保育発表会 (31年1/31、2/1) 実施

##### ② 中行事

i) 年長遠足 (4、5歳児、淀、11/1)

ii) 焼き芋大会 (11/16)

iii) クリスマス会 (12/12)

iv) 餅つき大会 (12/20)

※ なお、クリスマス会には毎年香里園ロータリークラブによるサンタクロース出演とプレゼントをいただきました。

餅つき大会にはパナソニック松愛会のご協力をいただきました。(別途、毎年保育用備品の寄贈もいただいています。)

##### ③ 小行事

i) お誕生日会=月1回実施

ii) 園外保育

#### (7) 保護者との協力・共同

##### ① 運営協議会の開催

こどもの豊かな発達をめざして、療育センターの運営と指導に

おけ

る「協力・共同」の努力の営みとして設置

30年度は8月を除き、毎月1回開催

##### ② 「夏祭り」6/23 (土) →保護者会と共催で実施

i) とともに創り、ともに楽しむ「夏祭り」

・役員の子も参加可能に

・実行委員、保護者会役員に評価していただいた

- ・議会はじめ、関係者多数参加いただいた
- ii) 法人職員全員参加の取り組み（文字通り協力・共同体制）
  - 職員からはもっと共に楽しめる取り組みを検討したい

と

主体的に案作りが進められている

- ③ 日曜参観 → 年2回実施（1回目6/10、2回目11/11）
  - 約 7割の父親が参加。年々父親の参加が増加し、「両親での子育て志向」が感じられる
- ④ 生活記録表 家庭訪問、保育参加・園外保育・グループ参加と懇

談

個人懇談を通して日常的に共同の子育てに努めている

- ⑤ 学習・情報の提供として、子育て教室、就学進路についての同伴見学、相談、説明会、懇談等で支援している
- 療育職員の連携で実施

(8) 就学・進路支援

就学、進路は保護者・家族の方が最も心配するところであり、丁寧

保障

な支援が必要。納得いくまで学校や施設の見学、説明会への参加を  
していくことに努めている。

- ① 就学予定児童 18名（うち併行通園児2名）
  - 卒園児童の就学先 18名（内2名は併用）
    - ・寝屋川支援学校 8名・交野支援学校 4名
    - ・地域支援学級 6名（内2名は併用）
- ② 保育所、幼稚園等に入所・入園 24名
  - ・ 保育所（ 公 2名、 民 12名）（内 0名は併用）
  - ・ 幼稚園（ 公 2名、 民 9名）（内 0名は併用）
  - ・ 認定こども園 0名

用)

併用)

2. 寝屋川市の療育システムにおけるセンター的役割の継承について

( 1 ) あ か つ き ・ ひ ば り 療 育 相 談 室  
(H31. 3. 31)

- ① 外来相談活動の内訳（実人数223名、延べ人数1912名）
  - 発達（14、27）、PT（39、303）、OT（101、745）、ST（107、593）

保健 (9、22)、栄養 (6、6)、福祉 (75、116)

歯科 (20、100) ※歯科は歯科診療で再掲

② 保育所・幼稚園発達巡回相談

i) 公立幼稚園 → 実人数 38名、延べ人数 80名  
(前期 37名、後期 36名、1~3月期 7名)

ii) 公立保育所、民間保育所園 → 実 31名、延べ人数 66

名

(前期 30名、後期 31名、1~3月期 5名)

③ 機関連携

i) 訪問 → 対象児 5名、5か所 (5回)

ii) 来所 → 対象児 25名、11か所 (25回)

④ そ

の他、在宅重症心身障害児訪問(実施)、保健所療  
育・医療相談 (4回)、経過観察クリニック (6回)、地域でつ  
ながる保護者交流会 (7回、延べ 77名) など支援

(2) 障害児相談支援、指定特定相談支援について

① 障害児相談支援 391 件 (就学前182件、就学後209件)

i) サービス利用支援 (新規 37件)

ii) // (更新・変更 141件)

iii) // (モニタリング 4件)

iv) (学齢期利用ケース新規19件、モニタリ  
ング85件、更新・変更 105件、計209  
件)

② 基本相談 実人員 159人、延べ件数 577件

(3) 保育所等訪問支援

相談リハビリテーションスタッフと保育士・指導員とが訪問する  
ことで専門性の高い支援を実施

・保育所等訪問支援事業のみ 対象児 8人 29回

① さつき保育所 3回 ② さつき保育所 3回 ③ 打上保育園 3回 ④  
あざみ保育所6回 ⑤ たちばな保育園 ⑥ 池田すみれこども園  
回⑦きんもくせいこども園4回

・併用グループ利用児 対象児 18人 39回

① さつき育所 3回 ② さざんか保育所 5回 ③ さくら保育所 6回  
④ コスモス保育所 7回 ⑤ たんぽぽ保育所 ⑥ 池田こども園  
⑦ ゆりかご保育園 2回 ⑧ 打上保育園 ⑨ 三井中央幼稚園  
⑩ 寝屋川幼稚園 2回 ⑪ 勝山愛和香里ヶ丘幼稚園 ⑫ 門真めぐ  
み幼稚園 2回

(4) ネットワークにおける連携強化



- ・障害児関係機関協議会実務者会議（月1回）
- ・障害児保育連絡調整会議（年5回）
- ・5H会議（子育て支援課連携会議）と連携  
→ 就学、進路への対応（引き継ぎ等）
- ・教育委員会教育相談員との連携会議（発達相談員・OTによる就学の引き継ぎ）
- ・児童発達支援事業「どんぐり教室」との連携→子育て教室への講師派遣（発達相談員、栄養士）

### 3. 実践研究の成果の継承と障害児保育発展のための研究活動

療育実践の質向上のためには、日々の研修、講義、見学実習、派遣研修（伝達講習）、委託研究、共同研究などを構造的に整理し推進していく必要がある。

法人職員は、まずは「引き継ぎ」を重点におき、「日々研修」を大事に

してきた。日々研修とは、日々の実践の「ふりかえり」から各種ケース検

討、行事等の実践から「その意味」と「方法・内容」を考えることをポイントにしている。そのうえで講義研修や派遣研修を位置づけている。

「療育センターの「実践力量向上のための方策」－実践と研修・研究の在り方（構造化）」

#### 〔1〕 主な研修活動

##### （1） 新入職員研修

- i) 平成30年度新規採用職員事前全体研修 (H30. 3/25)
- ii) 平成30年度新規採用職員園内研修
  - ・「あ・ひ園のパソコン使用について」 古
  - 4/5
  - ・「歯科の基礎知識・ブラッシング指導」 (大
  - 4/6
  - ・「福祉諸制度について」 (福祉相談 林田
  - あ) 4/9
  - ・「発達のみちすじと障害・子どもの発達とその見方考え方」 (高
  - 4/16
  - ・「バス誘導について」 (川

4/19

・「運動発達のみちすじ・ハンドリングの基本について」 ( PT 大江) 4/20

・「障害などの基礎的な知識と医療的な配慮点について」  
(保健 河田)

4/23

・「OTについて」 (OT 周藤)

5/7

・「感染症について」 (保健 黒)

5/10

・「OTについて」 (OT 周藤)

5/11

・「食事(形態も)について」 ST 赤池)

5/18

・「コミュニケーションについて」 (ST 赤池)

5/25

(2) 職場内相互研修

・ケースのスーパーバイズ (神戸大学木下孝司先生)

8/2

・言語聴覚士におけるケーススタディー  
(近畿大学附属病院 久保田 功先生)

7/10

・ケースのスーパーバイズ (神戸大学木下孝司先生)

10/30

・「発達と保育を考える」 (神戸大学木下孝司先生)

12/19

(3) 講義研修

i) 人権研修関係 (全職員)

・「虐待防止研修」 (寝屋川市こどもを守る課津田係長)

7/18

ii) 知識と実技の研修 (全職員)

・「療育計画は何のために立てるか」 (白井副理事長)

5/2

・「救命・救急・AED研修」 (保健 黒澤・北村 PT 大

江) 5/9

・自衛消防訓練 (寝屋川消防署)

5/16

・「発達研修・発達のみちすじパート I」 (高

- 6/26  
 ・「発達研修・発達のみちすじパートⅡ」 (高)
- 10/5  
 ・自衛消防訓練 (防火管理者)
- 5/16  
 ・不審者侵入対応研修 (寝屋川警察署)
- 10/19  
 ・感染症対応研修 (嘔吐・下痢の対応について) (保健 黒)
- 11/21  
 (4) 派遣研修  
 i) 各種機関主催の研修
- 1名  
 ・「寝屋川保健所管内集団給食研究会総会」 5/29 (栄養)
- 1名  
 ・感染症・食中毒予防対策講習会 6/4 (調理)
- 1名  
 ・「北河内地区障がい者(児)関係施設給食連絡会」 6/6 (栄養・調理) 4名
- 1名  
 ・感染症・食中毒予防対策講習会 6/12 (調理)
- 1名  
 ・食中毒予防と給食施設における衛生管理 6/26 (調理)
- 1名  
 ・「食と健康を考えるシンポジウム」 7/28～29 (調理)
- 2名  
 ・全国障害者問題研究会全国大会 8/4～5 (児童指導員)
- 1名  
 ・全国保育団体合同研究集会 8/4～6 (保育士・児童指導員)
- 3名  
 ・防災に関する研修会(ワークショップ) 8/29 (保健・栄養) 3名
- 2名  
 ・児童福祉施設研修会(食事提供関係) 9/13 (栄養・調理) 2名
- 1名  
 ・施設における感染症対策研修会(保健所) 10/23 (保健) 1名
- 2名  
 ・医療的ケアに関する研修会(保健センター) 10/31 (保健・保育) 2名
- 2名  
 ・北河内障がい者関係施設給食連絡会 11/7 (栄養・調理) 2名
- 2名  
 ・障害者歯科学会(中野サンプラザ) 11/17～18 (管理職・歯)

- 科)3名
- ・ 給食部会研修会 (尼崎中小企業センター) 12/1 (栄養・調理)3名
  - ・ 近肢連療育研究太会 (クリエイションコア東大阪) 2/2 (保育士・児指)2名
  - ・ 北河内障がい者関係施設給食連絡会 2/13 (栄養・調理)2名
  - ・ 寝屋川市歯科医師会障害者歯科講習会 2/16 (歯科)1名
  - ・ 北河内地区障がい者児給食連絡会 2/26 (栄養・調理)2名
  - ・ 調理従事者研修会 (危機管理) 2/26 (栄養)1名
- ii) 視察・見学・実習等への派遣
- ・ 集団給食研究会 (大阪工大キャンパスレストラン見学) 10/23 (調理)1名
- iii) 専門知識・技術の高度化に対応した療育実践展開のための派遣
- ・ 2018年齢別保育講座 4/12～/27(内6日間) (保育士・児童指導員) 3名
  - ・ 「呼吸状態の改善に向けた 実践!! 排痰の技術」 6/2 (保健)1名
  - ・ 「マカトン法ワークショップ 基礎1」 6/17 (児童指導員)3名
  - ・ 「てんかん基礎講座」 7/24～25 (保育士・保健)2名
  - ・ 脳性麻痺児療育関係職種対象講習会 7/31～8/5 (児童指導員)1名
  - ・ 感覚統合療法認定講習会 A (基礎・評価) コース 8/18～27 (内9日間) (OT) 1名
  - ・ ホバースアップローチイントラダクトリー講習会 9/22～24 (OT/ST)2名
  - ・ 近代ボバース概念小児領域8週間講習会 1/14～3/8(PT)1名
- iv) 園運営・管理に必要な実務研修、資格取得の派遣研修
- ・ 指定事業者・施設集団指導 (枚方市民会館) 5/25 (管理職)1名
  - ・ AED応急普及員講習会 5/31～6/1 (保健・児童指導員)2名

- 1名
  - ・ 甲種防火管理者新規講習会 6/13～14 (総務)
- 職)2名
  - ・ 指定障がい児支援事業者等集団指導 (府庁別) 6/19(管理)
- 1名
  - ・ 甲種防火管理者新規講習会 6/21～22 (栄養)
- 名
  - ・ 相談支援従事者初任者研修 7/12～9/14(内5日間) (相談) 1
- 名
  - ・ 児童発達支援管理責任者研修 10/26 (児童指導員・保育士) 3
- 名
  - ・ 児童発達支援管理責任者研修 11/29～30 (児童指導員) 2
- 名
  - ・ 児童発達支援管理責任者研修 12/18～19 (保育士) 1

## 〔2〕 事業年報の作成

年間の実践を総括して、教訓と課題を整理して、次への実践に生かす取り組みである。個別の実践経験が集団討議をへて、その成果を職員集団で共有していく。(30年10月発行)

## 4. あかつき・ひばり歯科診療所

### (1) 園児の口腔状態

#### ① 歯科検診結果 (前期) (5/31・6/7実施)

検診者数 84名 罹患者数 12名、罹患者率 14.3%、ウ歯総数23本  
1人平均ウ歯数 0.27本

#### ② 歯科検診結果 (後期) (11/1・11/8実施)

検診者数 81名 罹患者数 5名、罹患者率 6.2%、ウ歯総数 9本  
1人平均ウ歯数 0.11本

### (2) 診療状況の特徴

・ 延べ患者数333名のうち74.5%の248人が定期的な観察・リコールである。リコール受診者のうち194人(78.2%)が治療なしであった

### (3) 保護者支援

#### ① 子育て教室 (笠Dr 7/11) 「親子のための歯科教室」

#### ② 就学児ガイダンス (11/13)、退園児ガイダンス (1/22)

→ 卒・退園後の「地域歯科診療所への紹介と引き継ぎ」

#### (4) 歯科運営委員会の開催

- ・ 歯科診療所の運営上の諸問題について検討し、問題解決にあたる
- ・ 毎月第3月曜日20時30分～（保健福祉センター5階会議室）

#### <出席者>

歯科医師会 →（古玉チーフドクター、足立、吉川、上田、赤井、宮原、平野、笠）

療育センター →（所長、参与、室長、歯科衛生士）

子育て支援課 → 課長、係長

#### 5. 園児、保護者、関係者のニーズに応える事業展開について

- ・ おもちゃライブラリーへのボランティア活動（協力・共同へ）
- ・ 年8回 毎月（9、1月を除く、本年6月は夏祭りと重複、3月は総合センター移転のため無し）第4土曜日（12月はクリスマス会）
- ・ 活動を通して、職員は保護者とコミュニケーションがとれ、保護者の思い

を

知ることができた。

- ・ 27年度より、ローテーションでボランティア的位置づけから、法人職員の派遣協力としている。1回2名の派遣を原則としている。クリスマス会は10名以上派遣。
- ・ 法人の組織的対応により、保護者の利用者が増加している。

#### 6. 施設運営及び管理について

##### (1) 施設、設備、備品、車両等の整備・維持管理保全（主なもの）

- ① アスレチックの修繕（吊り橋部分腐食）（4/22）
- ② 太鼓橋ネット修理（4/27）
- ③ きりん園庭屋根修理（5/25）
- ④ 職員等用椅子老朽化し危険につき更新（5/29）
- ⑤ 親子クラス裏側溝隙間より蛇（マムシ？）出入りしているためモルタルで隙間を塞ぐ（6/21）
- ⑥ プール遮光ネット設置（6/30）
- ⑦ 温水プールのシャワー応急修理（永年の錆が堆積し温度上がらず）（7/6）
- ⑧ 保健室エアコンより水漏れ。ドレン系統修理（7/21）
- ⑨ ひよこシャワー応急修理（温水出ずプールの温度管理できず）（7/30）
- ⑩ ぱんだ倉庫の扉取り付け部シロアリ被害修繕（8/4）
- ⑪ 保健室エアコン水受け皿部分より漏水修理（8/18）
- ⑫ 印刷機修理（9/3）
- ⑬ あかつきホール屋根台風被害ブルーシート貼り（9/6）

- ⑭ 台風被害給水塔ポンプユニット業者応急対策 (9/13) 交換 (9/23～)
- ⑮ 台風被害歯科扉修理 (9/28)
- ⑯ きりんクラス園庭雨よけ修理 (9/30)
- ⑰ あかつき広場台風被害フェンス応急修理 (9/30)
- ⑱ 自転車置き場屋根台風被害修復 (10/10)
- ⑲ ひよこ裏フェンス、あかつき広場フェンス台風被害業者修理 (10/20～)
- ⑳ あかつきホール台風被害屋根業者修繕 (12/17～)
- ㉑ ブロック倉庫棚腐り応急修理 (12/28)
- ㉒ りすクラストイレ業者改修 (2/1～)
- ㉓ 地震対応ブロック塀業者改修 (2/3～)
- ㉔ ガスヒーポン外部ユニット排水管つまり修理 (2/5)
- ㉕ 給食排水管水漏れ修理 (2/23)

(2) 利用者の安全等に関する業務

- ① ヒヤリハット、事故の報告、周知、改善 (職員会議、ミーティング)
- ② AED講習 (5/9実施、講師 保健・PT)
  - ・ 全員対象で毎年実施するとともに指導職員を複数確保していく (講習会は年2回実施される→枚方寝屋川消防組合)

③ 通園バスの安全、効率的な運行のため、バスキャッチシステムを運用

(3) 利用者の人権および安全を保障するために、虐待防止等についての全職員の間での学習会実施 (7/18)

- ・ 虐待防止対策 (園内の各部署でも身体拘束のチェックと園内基準整備)

(4) 非常災害対策および緊急事故発生時の対応について

- ・ 消防訓練 (総合訓練) 2回 → ① 5/16実施, ② 11/14実施
- ・ 不審者侵入対応訓練 10/19実施

## 7. 基本的人権の尊重、苦情受付・苦情解決

(1) 苦情受付・苦情解決

- ・ 第三者委員は、保護者OB、職員OBから選出 (各1名、赤坂智恵子氏、奥山重子氏)
- ・ 第三者委員会、年3回 (6/4、10/15、2/18)
- ・ 苦情処理 3件
  - ① 大 阪府社会福祉協議会運営適正化委員会へ電話により進路決定にかかわる意見あり (8/20)
  - ② 降 園時、送迎バスがT字交差点で対向車とのトラブルがあり、運の対応が悪いとの訴えが園に入る。職員と運転手で相手宅に訪問し謝罪した。(10/10)

③ 大 阪府社会福祉協議会を通じ、感染症流行の対応につき、衛生面  
 対応につき意見があった。管理医師、保健所等の指導に基づき除菌の徹  
 底等のさらなる対応を行なった。

- ・「ご意見箱」への苦情等の投函は無かった。
- ・日常的に保護者・保護者会と要望及び要望書についてやりとりを実施  
 (運営協議会、保護者会、クラス懇談、個人懇談等を通して。)

(2) ヒヤリ・ハット、事故報告、件数等

① ヒヤリ・ハット 34 件

(内訳) ・害虫発見	11	・保育中の園児事故の恐れ	7
・落下物の発見	4	・保育用具の安全対策不足	1
・職員のケガの恐れ	1	・保育後の後始末の不備	1
・書類の入れ間違いの恐れ	1	・書類の置き間違い	2
・危険物の置き忘れ	2	・器具の消し忘れ	2
・遊具の設定忘れ	1	・バス内での事故の恐れ	1

② 軽微な事故 10 件

(内訳) ・保育中の園児のケガ	9 (軽い打撲5、軽い切傷1、転倒3)
・保育中の園児の事故	1 (異物を口に入れる)

③ 事故報告 19 件

(内訳) ・保育中の園児のケガ	5 (打撲2、火傷1、擦傷1、骨折1)
・職員のケガ	4 (打撲2、打撲と切傷2)
・保育中の園児の事故	6 (補聴器装着忘れ1、異物誤飲1、骨 折 2、打撲1、転倒・切傷1)
・書類の入れ間違い	2
・園児の鼻の中に異物発見	1
・送迎バス事故	1 (対向車にサイドミラーを当てられ た)

8. 人事に関すること

平成30年度中の人事異動

平成30年度採用職員8名

- <内訳>
- ・退職者補充分 3名
  - ・市派遣職員との入れ替え者 3名
  - ・療育体制充実分 1名
  - ・産休代替職員 1名
- <職種別>
- ・保育士3名・児童指導員3名・看護師1名・言語聴覚士1名



## 9. 実習等の受け入れ状況

### (1) 職場体験実習

- ・寝屋川市立第十中学校 1名 (6/12～6/14)
- ・寝屋川市立第五中学校 1名 (1/22～1/24)

### (2) 教職員研修

- ・寝屋川市2年目教員 社会体験研修  
市内小中学校より2年目教員 6名(7/26 3名、7/27 3名)  
<所属校>①梅が丘小学校 ②啓明小学校 ③北小学校 ④田井小学校⑤第四中学校、 ⑥第八中学校

### (3) 保育実習

- ・大阪国際大学短期大学部 幼児保育学科 1名 (8/17～8/31)
- ・大阪信愛学院短期大学 子ども教育学科 2名 (8/20～8/31)
- ・甲南女子大学 人間学部 総合子ども学科 1名 (9/3～9/20)
- ・日本メディカル福祉専門学校 1名 (11/26～12/7)
- ・四條畷学園短期大学 保育学科 1名 (12/3～12/14)
- ・大阪市立淀商業高等学校 福祉ボランティア科 3名 (12/10～12/14)
- ・大阪信愛学院短期大学 子ども教育学科 1名 (12/10～12/21)
- ・京都女子大学 発達教育学部 児童学科 2名 (1/29～2/12)
- ・梅花女子大学 心理こども学部 こども学科 1名 (2/13～2/26)
- ・大阪国際大学短期大学部 幼児保育学科 1名 (2/28～3/13)
- ・四條畷学園短期大学 保育学科 1名 (3/4～3/15)

### (4) 社会福祉援助技術現場実習

- ・京都ノートルダム女子大学 生活福祉文化学部 生活福祉文化学科 1名 (8/8～9/14)
- ・佛教大学 社会福祉学部 社会福祉学科 1名 (8/31～10/16)

### (5) 見学実習 (保育)

- ・四條畷学園短期大学 保育学科 24名 (8/16 12名、8/17 12名)

### (6) 地域歯科保健実習 (木曜日は歯科診療を見学)

- ・梅花女子大学 看護保健学部 口腔保健学科 3名 (1/15～1/18)
- ・梅花女子大学 看護保健学部 口腔保健学科 3名 (1/21～1/24)

### (7) リハビリテーション実習

#### P T (理学療法士) 養成臨床実習

- ・履正社医療スポーツ専門学校 理学療法学科 1名 (4/16～6/22)
- ・大阪行岡医療大学 医療学部 理学療法学科 1名 (6/4～7/27)

#### O T (作業療法士) 養成臨床実習

- ・神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科 1名 (4/9～6/8)

- ・（見学実習）四條畷学園大学 リハビリテーション学部 作業療法学専攻  
1名（8/3～8/4）
  - ・京都大学 医学部人間健康科学科 作業療法学専攻 2名（10/2～11/30）
  - ・神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 作業療学科 1名（2/12～2/22）
- S T（言語聴覚士）養成臨床実習
- ・大和大学保健医療学部 総合リハビリテーション学科言語聴覚学専攻 1名（5/22～6/22）
  - ・大和大学保健医療学部 総合リハビリテーション学科言語聴覚学専攻  
8/31）
  - ・大阪医療福祉専門学校 言語聴覚士学科 1名（8/20～9/14）

## 10. 第三者評価の取組み

第2回目の「第三者評価の受審」を平成29年度から30年度にかけ実施。前回（第1回目）は、平成27年度～28年度にかけ実施し、中間評価（自主点検実施）を平成29年3月に行った。

### （1）今回の取り組み経過

- ① 平成29年10月29日 大阪府社会福祉協議会 総合事務局 第1回 第三者評価委員会 第1回 総務企画部  
目受審につき依頼
- ② 10月23日 療育センター職員への説明会  
・大阪府社会福祉協議会第三者評価室 主任調査員 岡本雅司氏
- ③ 10月31日契約（契約金額330,000円 普通コース・リピーター割引）
- ④ 11月1日～12月15日（保護者アンケート→保護者より府社協直送）
- ⑤ 11月29日（水）全職員によるグループ別「自己評価」の実施
- ⑥ 12月19日（火）企画運営委員会による「自己評価」の実施
- ⑦ 平成30年2月9日（金）指定書類一式および自己評価書を府社協提出
- ⑧ 3月5日（月）、6日（火）の2日間、「訪問調査」  
・訪問調査員3名と事務局職員1名の計4名
- ⑨ 4月23日（月） 「福祉サービス第三者評価結果報告書（案）」の送付あり
- ⑩ 5月22日（火）評価決定委員会により評価結果確定

### （2）福祉サービス第三者評価結果報告書の概要説明

・評価対象（全59項目）

- ① 福祉サービスの基本方針と組織 9項目
- ② 組織の運営管理 18項目
- ③ 適切な福祉サービスの実施 18項目
- ④ 障害福祉分野の内容 14項目

### （3）評価結果（今回）

・評価方法は a、b、c の3段階

・各評価の意味

- a. → 質の向上を目指す際の目安となる状態
- b. → 多くの施設・事業所の状態（一般的な取り組み水準）
- c. → b以上の取組となる事を期待する状態

・評価結果

評価対象	項目数	a	b	c
I 福祉サービスの基本方針と組織	9	7	2	0
II 組織の運営管理	18	8	10	0
III 適切な福祉サービスの実施	18	14	4	0
障害福祉分野の内容	14	11	2	1
計	59	40 (68%)	18 (31%)	1 (2%)

・C評価の改善すべき点

- i) トイレ（仕切り板・カーテン等により、プライバシーに配慮したトイレの構造となるよう設備更新を順次行っているが、未だ対応できていない箇所が残っており、速やかな実施が望まれる。）

・第三者評価結果 総評

①特に評価の高い点

- i) 障害児歯科への取り組み
- ii) 退園児へのアフターフォロー
- iii) 福祉サービスの質向上に向けたPDC Aサイクル
- iv) 保護者とのコミュニケーション

②改善を求められる点

- i) 排泄介助に関するプライバシー保護
- ii) 利用者の記録の保管（鍵の保管等一部不十分）

参考

・前回評価結果

評価対象	項目数	a	b	c
I 福祉サービスの基本方針と組織	9	5	4	0
II 組織の運営管理	18	1	14	3
III 適切な福祉サービスの実施	18	9	7	2
障害福祉分野の内容	14	9	4	1
計	59	24 (41%)	29 (49%)	6 (10%)

・C評価の改善すべき点

- i) 人事考課の導入（職員の目標管理、キャリアパス）

- ii) 研修の在り方（目標管理に対応した研修、育成）→現在は職種別
  - iii) 情報公開（ホームページ公開）
  - iv) 苦情解決の仕組み（解決結果の公表）
  - v) 感染症予防等の対策マニュアルの整備（予防対策が弱い）
  - vi) トイレ（プライバシー保護になっていない）
- ・ 第三者評価結果 総評
    - ① 特に評価の高い点
      - i) 来るべき時のための専門職の確保・育成などに工夫と努力
      - ii) 家族支援の一環としての「きょうだいのつどい」
      - iii) 療育活動の一環としての歯科診療
    - ②改善を求められる点
      - i) 情報公開（ホームページ）
      - ii) 記録の工夫（作業量が膨大化の改善）
      - iii) 各職員に対応した研修制度（個人個人に対応したものに制度化へ）

(4) 第1回評価以降の主な取り組み

- ・ 職員の自覚の高まり。毎年自己点検を行い常に見直し意識を持って業務に当た
- たる
- ・ 組織の方針、人事評価の在り方等の整理。自己目標作成、研修履歴整備等による目的意識の醸成
  - ・ ホームページ立ち上げ、各種マニュアルの整備による、透明性、客観性の確保、苦情処理等の公開。プライバシー確保の取り組み
  - ・ トイレの改修等、療育環境の改善
  - ・ 災害時備蓄食糧整備。カセット式発電機等災害時緊急対応備品の整備

11. 「児童発達支援ガイドライン」に基づく自己評価の取り組み

児童発達支援ガイドラインに基づく「事業所における自己評価」及び「保護者等からの事業所評価」を実施し、結果をホームページ等に公表した。

評価結果の概略

(1) 保護者等向け児童発達支援評価 アンケート回収数 75 回収率 70%

チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない
環境・体制整備（設問4項目）	73.7%	21.0%	3.7%	1.7%
適切な支援の提供（設問5項目）	83.6%	13.4%	0.3%	2.7%
保護者への説明等（設問10項目）	84.0%	9.3%	0.8%	5.9%

非常時の対応（設問2項目）	61.6%	17.1%	3.4%	17.8%
満足度（設問2項目）	84.9%	11.6%	0%	3.4%
計（設問全23項目）	80.3%	13.1%	1.3%	5.3%

※設問は23項目あり、それぞれ自由記述欄があります。

#### (2) 事業所における自己評価結果【児童発達支援センター】

チェック項目	はい	いいえ
環境・体制整備（設問4項目）	75%	25%
業務改善（設問5項目）	100%	0%
適切な支援の提供（設問11項目）	100%	0%
関係機関や保護者との連携（設問11項目）	100%	0%
保護者への説明責任等（設問9項目）	100%	0%
非常時等の対応（設問7項目）	100%	0%
計（設問全47項目）	97.9%	2.1%

※設問は47項目あり、それぞれ「工夫している点、課題や改善すべき点など」の記述欄があります。

### Ⅲ. 今後の重点課題

#### 1. 療育水準の維持・向上に必要な職員の質の向上と人員の確保・育成、組織体制の確立

##### 2. 職員の療育実践力の水準向上のための研修、研究活動の強化にあわせ、職員のキャリアアップと連動させた研修整備

##### 3. 療育ニーズの多様化、高度化に伴う対応の検討

- (1) 18歳までの支援体制に必要な職員配置（福祉、相談支援、リハビリ）
- (2) 寝屋川市における障害児保育の拡がりに伴う発達巡回相談、併行通園に対する体制整備に伴う人材確保と育成
- (3) 卒園後のリハビリをはじめとした療育の「切れ目ない支援」への社会的ニーズの高まりに対応する施策の検討
- (4) 医療的ケアの継承・発展
- (5) 居宅訪問型児童発達支援事業等の実施による寝屋川市障害児者福祉の向上

##### 4. 施設運営、環境改善（修繕等）

- (1) 利用者の人権および安全を保障するために、プライバシーの擁護、個人情報の保護、危機管理（非常災害、緊急事故等の対応）、虐待防止等の学習、取組の実施
- (2) 通園バス老朽化による更新実現、老朽化の著しい「アスレチック」の更新実現

(3) 園児の生活空間にふさわしい環境整備、トイレの改修等をはじめ、施設・設備・備品・遊具等の維持管理保全

以

上